

鳥獣被害対策について（その5）
（平成28年3月15日）



ツキノワグマの被害状況 と対策について



福島県農林水産部農業振興課

1 被害状況

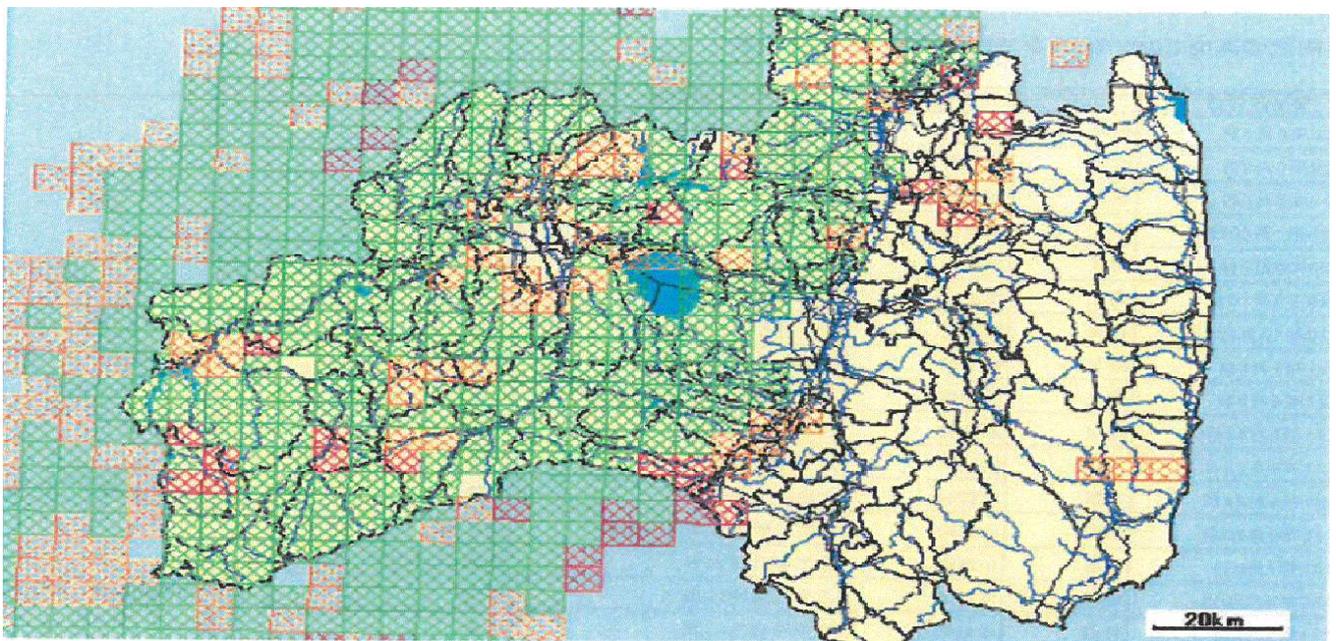
ツキノワグマは、現在、県内でイノシシ、ニホンザルに次いで3番目に農作物被害の多い獣です。平成26年度の被害金額は16,988千円で、獣類被害に占める割合は11.1%となっています。農作物被害は、県北地方や会津地方で多く発生しています。

また、人的な被害もみられ、里地での被害は農作業中に多く発生しています。

2 生息状況

本県のツキノワグマは、奥羽山脈、越後山脈を中心に分布していますが、近年、これまで生息に関する情報の少なかった阿武隈川以東で有害捕獲、養蜂被害、目撃情報があるなど阿武隈高地などへの生息域の拡大と定着が懸念されています。

また、有害捕獲地点の標高を見ると、年々低くなってきています。



第2回調査 1978年
第6回調査 2003年

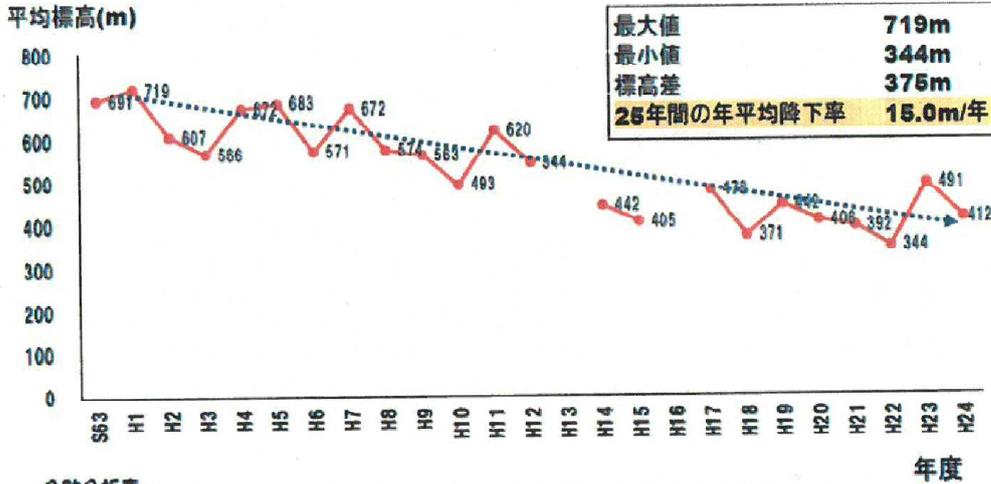
Mesh [第6回動植物分布調査(種の多様性調査)]
哺乳類 - ツキノワグマ・ヒグマ

Red cross-hatch pattern	第2回調査のみ確認
Orange cross-hatch pattern	第6回調査のみ確認
Green cross-hatch pattern	第2回と第6回の両方で確認

図1 ツキノワグマの分布図（第6回自然環境保全基礎調査から作成）（福島県ツキノワグマ管理計画（第2期計画）より引用）

年次推移 有害捕獲地点の平均標高(m)
 金津地方振興局管内・(S63-H24 データ欠 H13,H16)

- 年度ごとの平均値の差には統計的な有意差がある(一元配置の分散分析)
- S63年度からすでに下降が始まっている



分散分析表	変動要因	変動	自由度	分散	観測された分散比	P-値	F境界値
グループ間	18051486	22	820522.1	19.775	4.93E-67	1.549909	
グループ内	56471833	1361	41492.9				

図2 有害鳥獣捕獲位置の平均標高(福島県ツキノワグマ管理計画(第2期計画)より引用)

3 生態や特性

- (1) 大きさ (成獣) : 体長110~150cm、体重80~120kg
- (2) 食性

- ・ 植物性中心の雑食性。蜂蜜も好物。
- ・ 野生の食物

春~夏	ブナなど樹木の新芽、新葉、前年の堅果類落果物、キイチゴ類などの果実、ササ、タケなど。
夏	アリ、ハチなどの昆虫類、クロモジ、サルナシなどの果実類。
秋	堅果類 (ミズナラ、コナラ、ブナ、クリなど)、ミズキ、カキなど。 この他、ウラジロノキなど晩秋まで残る果実類。
動物食の割合は高くありませんが、魚や昆虫、動物の死体などを食べることもあります。	

- ・ 農作物
果樹類、トウモロコシ、スイカ、水稻、ソバなどの食害が目立ちます。

- (3) 繁殖

交尾期は6月、出産期は2月で一度に1~3頭出産します。子グマは生後1年半程度母グマと一緒に過ごし、3~4歳で性成熟します。

- (4) 行動

冬季(12月~4月ごろ)は樹洞、土穴などで越冬し、雪解け頃から活動します。走る速さは人間より早く、木登りや泳ぐことも得意です。夜間だけでなく、日中も活動しています。

オス 通常は30～50km²程度、まれに100km²を超える行動圏をもつ個体もいます。
メス 通常は10～30km²程度、まれに50km²程度を超える行動圏をもつ個体もいます。

(5) その他

聴覚や臭覚は非常に優れていますが、視覚はあまり良くありません。

4 対策

ツキノワグマの被害対策においては、農作物の被害対策のみならず、人身被害対策が重要です。人身被害を防ぐにはクマとの遭遇を避けることが大切です。

また、被害を軽減するには、①集落・農地管理（被害防除）、②生息環境管理、③個体数管理の3つを、集落環境診断を実施したうえで、地域の実情を正しく理解しバランスよく行うことが大切です。

被害を軽減するポイントは次のとおりです。

(1) 人身被害対策

ア 林縁部ややぶ、川（沢）沿いでの農作業

林縁部の農地では、早朝や夕暮れ時の作業は避けましょう。降雨や霧が発生しているなど、薄暗いときは日中でも出没する可能性が高まりますので注意してください。

また、やぶや川（沢）沿いの農地も危険です。やぶは日中でもクマが身を隠す絶好の場所です。川（沢）筋はクマが人目に付かないことから、好んで移動に使用するほか、夏は暑さをしのぐ格好の場所です。また、川（沢）沿いは水の音で人間とクマがお互いの存在に気づきにくくなります。

このような場所で農作業する際は、クマ鈴やラジオを携行し音を出しながら作業しましょう。

なお、農作業中に目撃したり足跡・糞などの痕跡を確認したら速やかに中止し、市役所・町村役場や警察署に連絡してください。

イ 飼いイヌの管理

イヌは臭覚に優れているため、人間より先にクマの存在に気づいてくれます。しかし、クマと対峙した時、訓練を受けていないと恐怖感から逃げ帰ることがほとんどです。クマは逃げるものを追いかける習性があるため、イヌがクマを連れてきてしまう可能性があります。

イヌを農作業に同行する際は、引き綱を付け農地周辺にしっかりとつないでおくことが大切です。

(2) 農作物被害対策

ア 餌をなくす

クマが集落周辺に出没するのは餌があるからです。販売目的の農産物だけでなく、自家用果樹（特に未利用樹が多いカキ）、収穫残渣、生ゴミなども魅力のある餌です。集落周辺には「無意識」に置かれた餌がたくさんあり、これをなくさない限り集落周辺に住み続けることとなります。集落全体でよく話し合い、未利用果樹や収穫残渣などの解消に努めましょう。

イ 正しく囲う

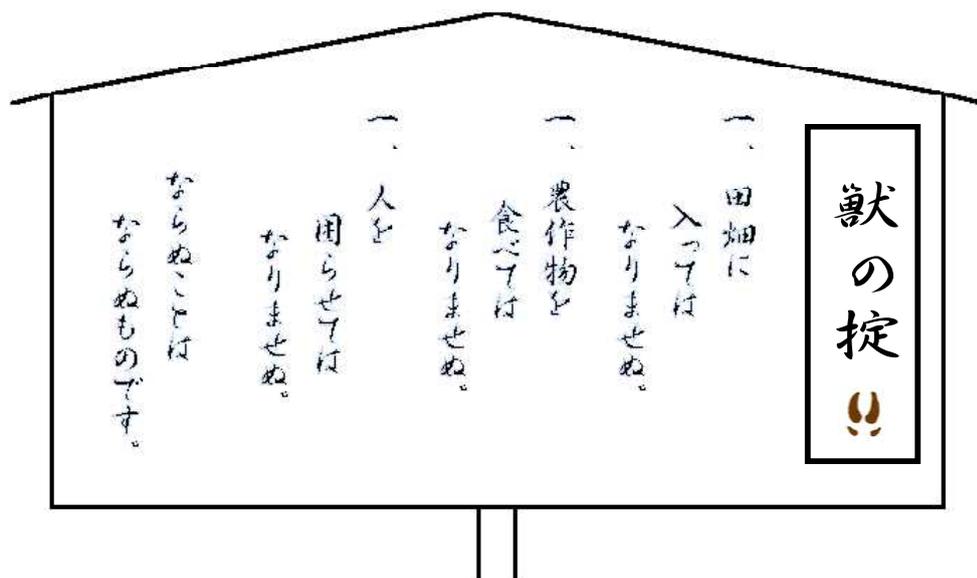
被害軽減効果が高い電気さくなどを活用した防護柵により、農地を物理的に囲い侵入を防ぎます。正しく囲い、容易に餌を食べさせないことが大切です。

ウ 隠れ場所を減らす

集落周辺の見通しの悪いやぶなどは、クマが安心して身を潜めることができる場所です。農地周辺に隠れ場所があると農作物に執着し、被害も大きくなりますので、計画的に解消しましょう。

エ 追上げを行う

農地はクマに「人間の活動域」であることを認識させるため、動物駆逐用煙火（花火）等で『追上げ』をし、森林に押し返すことが大切です。クマの痕跡を確認したら継続的に実施しましょう。



発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>